基幹システム再構築のためのデータHUBシステムの構築方法【会場】（4126192）

今後のDX推進やデータドリブン経営にとって、基幹系システムのブラックボックス化は深刻な課題です。共通データの一元管理と重複のないデータ連携を実現するデータHUBシステムは、同時に緩やかな順次移行を可能にします。本セミナーはこのデータHUBシステムの構築手法を学びます。

開催日時	2027年2月16日(火) 10:00-17:00会場
JUAS研修分類	要件定義から運用(新技術による開発・保守)、ITアーキテクト・システム企画・IT基盤(レガシーシステム再構築)
カテゴリー	IS導入（構築）・IS保守 専門スキル
DXリテラシー	What(DXで活用されるデータ・技術)：デジタル技術
講師	中山嘉之 氏 （株式会社アイ・ティ・イノベーション プリンシパルコンサルタント、元 協和発酵キリン（現：協和キリン）情報システム部長 ） 1982年より協和発酵工業（現・協和キリン）の情報システム部にてDBモデラー兼PMを務める。2005年からシステム部長とアーキテクトの2足のわらじを履き、2010年「エンタープライズ・データHUB」を完成。2013年よりアイ・ティ・イノベーションのコンサルタントに転じ、数多くのユーザ企業のITアーキテクチャの設計に携わる。2023年「エンタープライズアーキテクチャのセオリー」を執筆。
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円（１名様あたり　消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NBF東銀座スクエア２F）
対象	基幹系システムの再構築の構想策定やDXのための基幹系のモダナイゼーション戦略の作成に関与される方 中級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態
会場のみ（オンラインなし）
■テキスト
当日配布
■開催日までの課題事項
特になし

今後のDX推進やデータドリブン経営にとって、基幹系システムのブラックボックス化は深刻な課題です。
基幹系システムの再構築に際しては、将来の柔軟性、
拡張性を考慮したデータ中心アーキテクチャへの転換とともに、ビッグバン再構築のリスク回避が求められます。
共通データの一元管理と重複のないデータ連携を実現するデータHUBシステムは、同時に緩やかな順次移行を可能にします。
本セミナーはこのデータHUBシステムの構築手法を学びます。

＜内容＞
1　企業内各種データベースの位置付け
・次世代企業システムのデータ連携概要

2　システム再構築の課題と対応策
・各種再構築手法のメリット・デメリット
・都市計画型モダナイゼーション

3 データ中心アーキテクチャ
・エンタープライズアーキテクチャ（EA）とは
・データ中心アーキテクチャの概観

4 エンタープライズ・データHUBの設計手順
・データHUB設計手順の流れ
・エンタープライズ・データモデリング
・データカタログへのメタデータ定義
・全社アプリケーション鳥瞰図
・マスターハブ/トランザクションハブ
・データHUB連携マッピング

5 データHUBの実装構築
・各機能を実現する実装ツール群
・データHUBシステムの対象範囲
・構築スケジュールサンプル

6 データ中心アーキテクチャへの移行
・疎結合アーキテクチャへの転換シナリオ
・データHUBによる分割移行

7 データHUBの運用保守
・データカタログの維持管理
・アーキテクチャ管理室の設置